

「首都圏の水がめ」 みなかみ3ダム・春の点検大放流

利根川の最上流部に位置する群馬県みなかみ町にある3つのダム（矢木沢ダム・奈良俣ダム・藤原ダム）は「首都圏の水がめ」であるとともに、利根川の治水における重要な役割を担っています。3ダムでは年に一度、洪水期を迎える前にダムの放流設備が安全に動作するかを確認するため「点検放流」を行っています。この点検放流にあわせて平成30年からはみなかみ町、地元住民及び関係機関、国土交通省、水資源機構の協働によりみなかみ町の春の一大イベントとして開催されています。



月夜野矢瀬太鼓の演奏(奈良俣ダム)

ちらで写真を撮る光景が見られるなど、思いのペースでダムを楽しんでいます。さらに、ダム天端では太鼓の演奏などたくさん楽しいイベントも開催されたほか、地元の良い食べ物やダムグッズの店が集まった「みなかみマルシェ」も開催され、各ダムともたいへん賑わいました。矢木沢ダムの点検放流では、「あー楽しかった」とたくさん水を浴びてずぶ濡れになったお子さんの声が聞かれるなど点検放流を楽しまれた来場者の笑顔がたくさん見られました。



みなかみマルシェの賑わい(矢木沢ダム)



水を浴びる来場者(矢木沢ダム)



藤原・奈良俣再編ダム再生事業完了式



奈良俣ダムの洪水調節容量239万m³と藤原ダムの利水容量239万m³の容量振替を行うとともに、藤原ダムの洪水調節方式の変更により治水機能の向上を図る藤原・奈良俣再編ダム再生事業について、令和元年度から令和4年度までの4か年の工期で国土交通省関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所及び独立行政法人水資源機構沼田総合管理所により施工した事業が完成し、5月20日に、奈良俣ダムにおいて事業完了式を行いました。

式典では、主催者挨拶の後、群馬県知事（代理）、地元選出国會議員、群馬県議会議長及びみなかみ町長による祝辞が述べられました。群馬県知事（津久井群馬県副知事代読）は「群馬県では令和元年12月に群馬気象災害非常事態宣言を發出し、頻発化・激甚化する気象災害の新たな脅威に対応できる災害レジリエンスNo.1の実現を目指し、自然災害から県民の命を守る体制の確立を進めているところ。ダム再生事業の完成に



群馬県知事代理 津久井副知事挨拶

花を添えてくれました。

より、更に洪水調整の効果が高まり、下流域における県民の生活と命を守るものにつながるものと期待している」と述べられたほか、来賓の皆さまからも機能が強化されたダム期待が述べられました。

祝電・来賓紹介の後、事業概要報告として、利根川ダム統合管理事務所長及び沼田総合管理所長から各ダムの改造工事について、厳しい施工条件の中ではあったもののDX等を活用し短期間で施工したことなどが説明されました。

続いて、式典は屋外のセレモニー会場に場所を移し、来賓による点検放流のゲート開放スイッチ押下とテープカットにより、奈良俣ダムからの点検放流が開始されました。多くの一般来場者が見守る中、ゲートが開き放流が始まるとお祝いムードは更に高まりました。そんな雰囲気の中、群馬県のマスコットでもあり群馬県宣伝部長の「ぐんまちゃん」と、地元みなかみ町水上温泉のイメージキャラクターの「おいでちゃん」も会場にかけつけ、記念撮影に



奈良俣ダム点検放流



矢木沢ダム点検放流(30m/s)



藤原ダム点検放流

画像提供：みなかみ町観光協会



画像提供：みなかみ町観光協会

ホロージェットバルブ放流(藤原ダム)

れぞれの特徴を活かした見学コースが設定され、イベント来場者は普段は立ち入ることができないゲート操作室やダム堤体直下、連絡トンネルなどたくさんの方の視所を楽しまれる絶好の機会となり、あちらこ

今年の点検放流は、5月20日と21日に開催され、合計約3000人が来場しました。それぞれ特徴のある3ダムからの点検放流は、みなかみ地域の春の風物詩となっており、見どころは、藤原ダムの日本最大規模のホロージェットバルブからの迫力ある放流、利根川で最大の貯水容量を誇る矢木沢ダムのスキージャンプ方式の洪水吐きからの迫力放流、ロックフィルダムの中で全国3位の高さを有する奈良俣ダムからの優雅な放流です。また、3つのダムを巡ることのできる異なる型式のダムが見られるほか、そ